

イグスンド・ペーパーボードは大切な伝統を守り、今年も季節のグリーティングカードをお届けします

イグスンド・ペーパーボードの2020年のグリーティングカードは、パリのマリアン・ゲリー・スタジオ（Marianne Guély Studio）によるデザインで、極めて洗練されたデザインと先進の仕上げ技術が用いられています。一方、カードのメッセージはシンプルで、自然と人間が一体となった成長という、この時代に最も必要とされていることを反映したものとなっています。

イグスンド・ペーパーボードがお届けする今年のグリーティングカードは、紙を基本素材として高級事務用品からパッケージ、精巧なアートワーク、空間演出まであらゆる作品を生み出している、マリアン・ゲリー（Marianne Guély）さんのデザインによるものです。

小さな人々の輪と木の年輪が描かれた控えめながらエレガントなグリーティングカードは、人間と自然が一体となる様子を象徴しています。ゲリーさんは、「人間は歩く木のようなものです。私たちの足は根っこであり、大地につながる存在。木の生命線は、私たちの感情や、世界と自然とのつながりを反映しているんです」と語ります。

彼女のカードには、その洗練されたデザインの中に何層もの仕掛けが組み込まれています。箔押しされた層があるほか、カードをメッシュ状にパンチした微細な穴からは光が透けて輝きを放っています。これはデルタ・ネオ（Delta Neo）社の高精度マイクロドリル技術によって実現したものです。従来からある機械的加工ですが、最近はペーパーボード（板紙）をはじめとするさまざまな基材にも適用されています。

デルタ・ネオ社はマイクロドリル技術によって、デザインやロゴ、写真等を0.3mmという細い高精度ドリルで再現しています。同社のマイクロドリル部門責任者であるポーリン・ガティノー（Pauline Gatineau）さんは、「この技術は美しい装飾方法を実現し、焦げ付きや臭い、変色が生じないので、

ペーパーボードの白さを保つことができます」とし、また、「用紙には、なめらかで扱いやすい Invercote（インバーコート） Creato 380g/m2 を使用しました。今後のプロジェクトにもぜひ使用したいですね」と語っていました。

Invercote Creato は、パッケージとグラフィックデザインのどちらの用途にも対応するよう設計されています。卓越した美観を与える印刷特性を、完全コーティングシルクのように仕上げた両面に備えています。また、ソリッドブリーチ・プライマリー・ファイバーの多層構造により、機械パルプ・リサイクル繊維含有の板紙や一層抄きの晒しプライマリー・ファイバー板紙と比較して強度と剛度に優れています。

イグスンド技術製品情報部門のマネージャーであるレベッカ・アルメフロ・スヨルンド（Rebecka Almflo Sjölund）によると、イグスンドは20年以上にわたってグリーティングカードを制作しており、この毎年恒例のカードはそのたびに話題を呼んでいます。スヨルンドは今年のカードプロジェクトの責任者でした。「グリーティングカードの仕事も、デザイナーたちが当社のペーパーボードでどんなことができるのかを見るのも、とても楽しかったですね。カードは、関係性を強めるためだけでなく、ペーパーボードを使う方々にインスピレーションを感じてもらい、面白いデザインを応援し、実現できることへの意欲をかき立てるためにもお届けしています。今年は直接お会いすることができないから、関係性を保ち続けることが、今までになく重要だと感じています」。

さらなる詳細は、下記までお問い合わせください。

Rebecka Almflo Sjölund

rebecka.almflo.sjoland@holmen.com